

特集

# 子供たちの 日常空間に 遊びを届ける！



新型コロナウイルス感染拡大の影響により、子供の屋外での体験活動の場や機会が少なくなっている中、子供たちの活動は多くの制約を受けています。国立成育医療研究センターが実施した第5回「コロナ×こどもアンケート」<sup>※1</sup>によると、小学生以上高校生以下の子供のうち、42%が「コロナのことを考えると嫌な気持ちになる」と回答しており、多くの子供たちがストレスや不安感を抱いていることが読み取れます。

今回の特集「子供たちの日常空間に遊びを届ける！」では、「冒険遊び場(プレーパーク)」に焦点を当てています。冒険遊び場とは、プレーリーダー<sup>※2</sup>や地域の大人が見守る中、自然の素材や道具・工具を使いながら、子供が思いのままに自分たちで遊びを生み出せることを目指した手づくりの遊び場のことです。

今回は、特定非営利活動法人日本冒険遊び場づくり協会の代表である関戸博樹さんに、冒険遊び場の歴史や現状、今後の展望についてお話を伺いし、冒険遊び場の活動を紹介します。

※1 国立成育医療研究センター「コロナ×こどもアンケート第5回調査 報告書」(2021年)

※2 プレーリーダー…プレーパークで、子供の見守りや遊びの補助などを行う役割の大人

冒険遊び場に携わるようになったきっかけを教えてください。



日本冒険遊び場づくり  
協会代表  
関戸博樹さん

もとは大学で社会福祉の勉強をしていましたが、実習を契機に、学問より実践、特に地域福祉の視点からの実践に関心を持つようになりました。またその当時、遊びを通して地域の子供と関わるサークルに所属しており、その活動の中で、冒険遊び場の存在を知りました。

冒険遊び場の活動を通して、自分の専門である社会福祉の実践と共に、子供を含め地域に暮らす人たちの自己実現を支えるきっかけづくりや地域との繋がりがづくりができるかもしれないと思い、プレーリーダーを志しました。





